

部門	報告内容	写真等	とき・ところ 主体・対象（構成員数）
担い手	「いなざわ植木まつり」で４Ｈクラブ活動をＰＲ！ 尾張４Ｈクラブ連絡協議会は稲沢市で開催された「いなざわ植木まつり」に出店した。クラブ員はダイコン、パブリカ等の農産物、イチジクジャムや梨ジュースといった加工品販売を通し、地域における農産物生産活動へ関心と親しみを持ってもらえるよう呼びかけた。ブース内では４Ｈクラブの活動内容をまとめたポスターを展示し、来場者に４Ｈクラブ活動の説明とPRを行った。 なお本年の「いなざわ植木まつり」は、４月２０日から２９日まで開催され、来場者数は約３万１千人に達し、盛況のうちに終了した。	 出店の様子	令和８年４月２０日 国府宮神社参道 （稲沢市） 尾張４Ｈクラブ連絡協議会 （８名）
	熱田神宮で女性農業者によるマルシェが開催される 女性農業者グループ“@me”（アミィ）（名古屋市始め１０市町）の会員７名が集まり、熱田神宮内でマルシェに参加した。会員たちは事前の定例会で出展物を募り、生鮮野菜や花苗など農産物のほか、茶葉やドライフルーツ、トマトジュースなど加工品の販売を行った。 ゴールデンウィークで訪れた参拝客や外国人観光客に商品を販売したほか、会員のほ場や栽培品目が記載された自作の「@me活動マップ」を配布し、積極的なPR活動を行った。	 参加会員とマルシェ	令和８年５月３日 熱田神宮敷地内 （名古屋市） 女性農業者グループ @me （１７名）
作物	麦茶用六条大麦採種ほ第２回ほ場審査、全ほ場合格。 ＪＡ愛知北管内の大口町、扶桑町は県内最大の麦茶用六条大麦の産地であり、３戸で約７５haが栽培されている。令和６年産から１戸で種子生産を開始し、本年で３年目となる。農業改良普及課では、採種ほの栽培状況や生産物が県の定める基準を満たしていることを確認し、適宜改善指導を行うことで高品質な種子生産を支援している。今回、大麦の成熟期に行われた第２回ほ場審査でも、４／２４（金）の第１回ほ場審査につづき、雑草や異株、病害虫の発生が基準値以下であることが確認され、採種ほ全ほ場が審査合格となった。	 審査の様子	令和８年５月２７日 大麦採種ほ場 （大口町） 大麦採種栽培農家 （１戸）
	じねんじょ部会 種芋の共同生産に取り組む 犬山東部じねんじょ部会では、部会の地域増殖ほにおいて、共同で種芋の生産を行っている。当部会は、サポーター制度（市民による援農）を導入しており、サポーターは地域増殖ほや共同研修ほ場の作業応援を行っている。サポーター期間終了後は、希望により部会員となることができ、新規就農者の確保や地域交流につながっている。今回は、地域増殖ほでの、むかごの播種準備に普及員も参加し、栽培管理の確認を行うとともに、部会員との情報交換を行った。今後は、安定的な種芋生産に向け、昨年被害の大きかったハスモンヨトウに対する部会員の知識向上を図り、防除農薬や管理チェックシートの見直しを行う。	 むかご播種準備の様子	令和８年５月１１日 犬山市 犬山東部じねんじょ部会 （２５名）
野菜	ＪＡなごや下之一色出荷部、エダマメの目揃会を開催 当部は中川区南部の下之一色地区で、主に夏作で施設エダマメ、冬作でパセリを生産している。エダマメの出荷開始から１週間が経ち、目揃会が開催された。部員及び市場担当者がそれぞれの出荷物の検品を行い、莢の色や規格外品の混入状況などを確認した。後継者として今年から栽培を始めた生産者からは「少しでも良いものができるよう、学びながら頑張っていきたい」と抱負が述べられた。農業改良普及課からは、この春もエダマメの着莢に大敵な高温・乾燥状態であったことから、かん水や高温時の換気に注意するよう伝えた。	 エダマメの出荷状況を確認する部員ら	令和８年５月１５日 ＪＡなごや 下之一色出荷部集荷場 （名古屋市中川区） ＪＡなごや 下之一色出荷部 （５名）

部門	報告内容	写真等	とき・ところ
			主体・対象（構成員数）
果樹	果樹栽培サポータークラブ、ブドウ支援に向け技術習得に取り組む JA尾張中央では、モモの労働力確保を目的に、援農組織「モモ栽培サポータークラブ」を運営してきた。近年はブドウ農家でも繁忙期の労働力不足が課題となっており、本年度からブドウの栽培支援を本格的に開始する。クラブ名も「果樹栽培サポータークラブ」へと生まれ変わった。活動開始にあたり、農業改良普及課は花穂整形の技術指導を実施した。初めてブドウ作業に取り組むクラブ員たちは、説明に真剣に耳を傾け、丁寧に技術を習得していた。農業改良普及課では、質の高い労働力を確保することで、果樹農家の経営安定と所得向上を目指し、クラブ員の技術習得を支援していく。	 花穂整形を真剣に学ぶクラブ員	令和8年5月8日 JA尾張中央 試験園場 (小牧市)
	即戦力として活躍！果樹サポータークラブ、初のブドウ支援で高評価 JA尾張中央は、本年度からブドウの栽培支援を本格的に開始する。農業改良普及課の指導のもと技術を習得した果樹栽培サポータークラブ員11名は、早速管内のブドウ農家4名の作業支援に臨んだ。支援を受けた農家全員は、クラブ員の高い技術力と作業の速さに感嘆し、次年度以降も継続してサポートを要望した。農業改良普及課では、JA担当者とともにクラブ員・農家双方へのヒアリングを実施し、PDCAを回しながらクラブ員の技術向上およびクラブ運営の改善を行い、果樹農家の経営安定と所得向上を支える「頼れる援農力」として、今後も支援を続けていく。	 技術力を確認し安心する生産者（左）	令和8年5月11日 JA尾張中央管内 ブドウ園地 (春日井市・小牧市)
畜産	養牛農家の情報交換会を開催 ～参加者は過去最多～ 農業改良普及課は、養牛農家の情報交換会を開催した。尾張地域に点在する農家間の結び付きを高め、地域の和牛繁殖基盤の強化と技術力の向上を図ることを目的としている。情報交換会は令和4年度から開催しており、今回が7回目の開催。初めてバーンミーティングを企画し、尾張地域外からの参加もあり、これまでに最も多い15名が参加した。農業改良普及課はバーンミーティングや全酪連の講師による講演会の企画・運営を行った。参加者から「子牛の管理の話を聞いたり同業者と情報交換することで、営農課題解決の糸口を見い出すことができた」などの意見があった。	 バーンミーティングの様子	令和8年5月8日 K牧場（長久手市）
			尾張地域の養牛農家 (11名)